

EarthFinder 操作説明書

OperationManual of EarthFinder.

Version 3.8.0
差分マニュアル

目 次

はじめに	1
8 地図属性操作を行う.....	2
8.1 センサス値表示	2
8.2 道路色分け表示	5
10 プロット操作を行う.....	7
10.13 プロットにエリア属性値を反映.....	8
10.15 スパイダー表示を行う	7
11 集計・グラフ操作を行う	10
11.11 店舗相関分析データを作成する.....	10
12 その他の操作.....	14
12.15 表示状態の保存／復元	14
12.16 システムフォルダを開く.....	15
30 マーケレポート作成.....	16
30.1 レポート一括作成.....	16
30.2 オリジナルレポート出力.....	17

はじめに

本書では、Version3.7.0 操作説明書との差分(EarthFinder Version 3.8.0 で新たに追加／変更した機能)について、その操作を説明しています。(追加／修正した部分にはマーキングをしています。)

各章、項目の番号は、EarthFinder Version 3.8.0 の(フル版)の操作マニュアルに対応していますので、必要に応じてご参照下さい。

以下に追加・改修した機能を一覧します。

- 地図属性
 - ・ 交通センサスデータの利活用のための「センサス値表示」「道路色分け表示」機能を追加しました。
- プロット機能
 - ・ プロットにエリア属性値を取り込む機能を追加しました。
 - ・ スパイダー表示に、顧客の分布を商圈エリアとして保存する機能を追加しました。
- 集計機能
 - ・ 店舗相関分析データ機能に、「相関分析レポート」の出力を追加しました。
- その他の機能
 - ・ 現在の表示状態を保存し、これを復元することができるようになりました。
 - ・ 弊社からの問い合わせ時に使用する機能として「システムフォルダを開く」を追加しました。

8 地図属性操作を行う

Version3.8.0 では、地図属性のうち「交通センサス」を利活用する以下の機能を加えました。

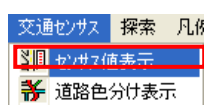
- ・ 複数道路の交通センサス値を一覧表示する
- ・ 交通センサスの値によって道路の表示属性(線幅・線色)を変えて表示する

(今回追加された機能を利用するには「DRMA」地図がインストールされている必要があります。)

8.3 センサス値表示

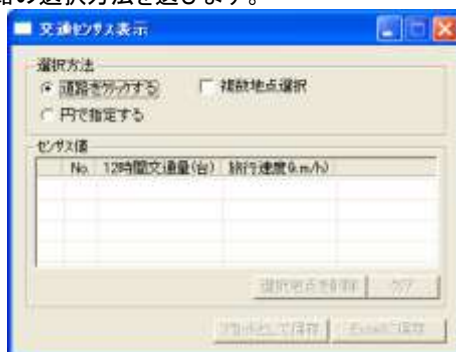
8.3.1 センサス値表示設定画面を開く

ツールバーメニュー「交通センサス」から「センサス値表示」を選択し、「センサス値表示」設定画面を表示します。



8.3.2 道路の指定方法を選ぶ

交通センサスを表示したい道路の選択方法を選びます。



道路の選択方法は、

- ・道路を地図上でクリックして選択する
 - ・表示する範囲を地図上で円で指定する
- の2つがあります。

8.3.2.1 道路をクリックする

1. 「交通センサス表示」設定画面で、「○道路をクリックする」を選択して下さい。
2. 地図上の道路をクリックして下さい。
3. クリックした道路がハイライト表示し、センサス値が「交通センサス表示」設定画面に表示されます。



- ❗ 複数の道路を連続して指定する場合は「☐複数地点を選択」にチェックを付けて操作して下さい。
- ❗ すでに選択した道路(ハイライト表示している道路)を再度クリックすると、選択が解除されます。
- ❗ クリックした位置に、交通センサスデータ属性をもつ道路がない場合は、設定画面上に「センサスデータはありませんでした。」と表示されます。

8.3.2.2 円で指定する

1. 「交通センサス表示」設定画面で、「○円で指定する」を選択して下さい。
2. 地図上で円の中心点とする場所をクリックし、マウスを動かすと円が描かれます。



3. 円の大きさが決まったら、マウス右ボタンをクリックするとポップアップメニューが表示されますので、「確定」を選択します。



(円の作成を取りやめるときは「取消」を選択します。)

4. 作成した円にかかる道路がハイライト表示され、センサス値が「交通センサス表示」設定画面に表示されます。



- ❗ 画面上の区間番号と、地図上に表示されている番号の直線が対応しています。
- ❗ すでにセンサス値が表示されている場合は、「クリアしてよろしいですか」のメッセージが表示されます。
- ❗ 円で指定が終了すると、選択方法は「道路をクリックする」にリセットされます。

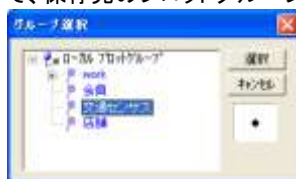
8.3.3 センサス値一覧上での操作

- ※ 一覧表左端のチェックボックスを On/Off すると地図上のハイライト表示の On/Off ができます。
- ※ 一覧表からデータを削除するには、削除したい行を選択状態(ハイライト状態)にして「選択地点を削除」ボタンを押下します。
- ※ 「クリア」ボタンで、一覧上のデータすべてが削除されます。

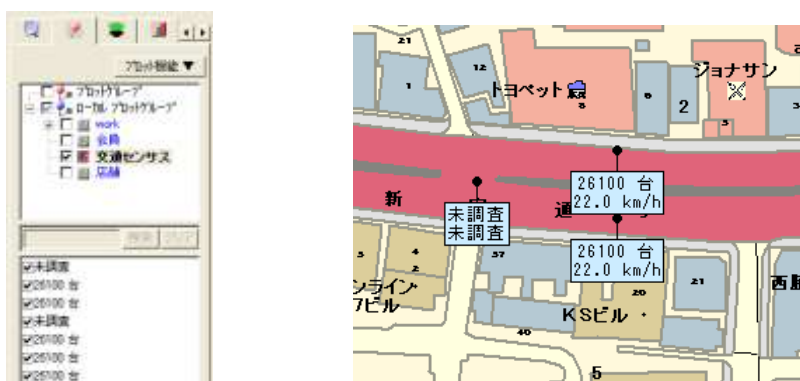
8.3.4 センサス値をプロットとして保存する

道路の代表点(番号ラベルが表示されている位置)にプロットを作成し、その属性値として交通センサスデータ(「12時間交通量」と「ピーク時旅行速度」)を保存することができます。

1. 「プロットとして保存」ボタンを押下します。
2. プロットグループ選択ダイアログが開くので、保存先のプロットグループを選択します。

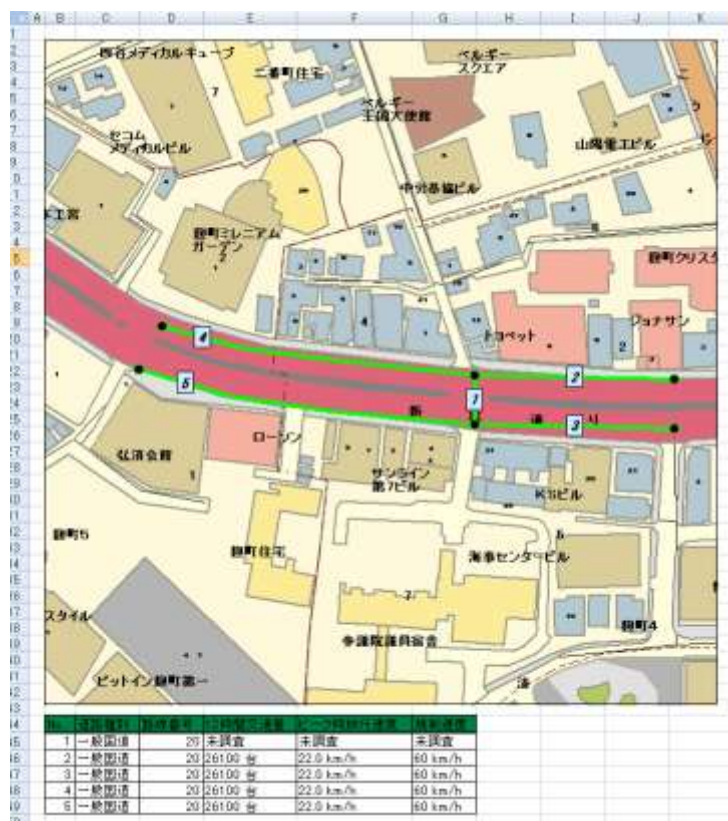


3. プロットパネルから「名称」表示を On にして表示すると、交通センサス値がラベルのように表示できます。



8.3.5 地図とセンサス値を Excel に保存する

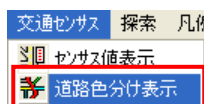
現在表示中の画面とセンサス値一覧を Excel に保存することができます。「Excel に保存」をクリックして、保存ファイル名を設定して下さい。



8.4 道路色分け表示


8.4.1 道路色分け表示設定画面を開く

ツールバーメニュー「交通センサス」から「道路色分け表示」を選択し、設定画面を開きます。



8.4.2 機能の有効無効を選択する

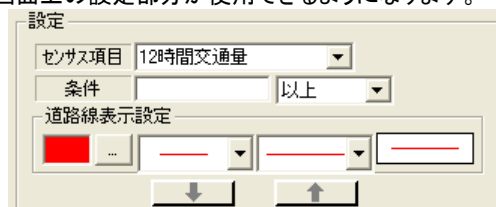
「道路色分け設定画面」最上部の「☐交通センサスの値によって道路色・幅を変更して表示する」で、本機能の有効／無効を選択します。

 有効になっている場合は、設定画面を閉じてても地図上の道路色分けは有効となっています。




8.4.3 色分け条件を設定する

8.2.5 で機能を有効にすると、画面上の設定部分が使用できるようになります。



1. 条件とするセンサス項目を選択して下さい。
「12 時間交通量」「ピーク時旅行速度」のどちらかから、色分けの条件とする項目を選択します。
(どちらかひとつのみ選択可能です。2つの条件を混在させることはできません。)
2. 条件値を設定して下さい。
色分けの仕切り値を設定します。
例えば、
・2500 台 以上 (12 時間交通量の場合)
・20.0Km 以上 (ピーク時旅行速度の場合)
などです。
3. 表示属性を選択して下さい。
条件に合致したときの道路色、線幅、線種を選択して下さい。
4. 条件一覧リストに追加する。
以上の設定が終了しましたら、「↓」で作成した条件を一覧に追加します。

 条件を複数設定した場合は、一覧で上に設定されているものから適用されます。

例えば、

- ・1500 台 以上
- ・2500 台 以上

と設定しても、2番目の条件はすでに最初の条件の判定で合致するので無意味となります。ご注意ください。
このように設定してしまった場合は、次項に示す

8.4.4 色分け条件を変更する

条件一覧リストでは以下の操作が可能です。

- ※ 設定した条件の順番を変更する
判定の順番を変更するには、変更した条件を一覧上で選択して、画面右部の「↑」「↓」を押下します。
- ※ 設定した条件を削除する
一覧上で選択して、「↑」を押下することで削除することができます。
- ※ 設定した条件の表示属性を変更する
一覧上で選択して、表示属性を変更したのち「↓」を押下すると変更を一覧に反映することができます。

10 プロット操作を行う

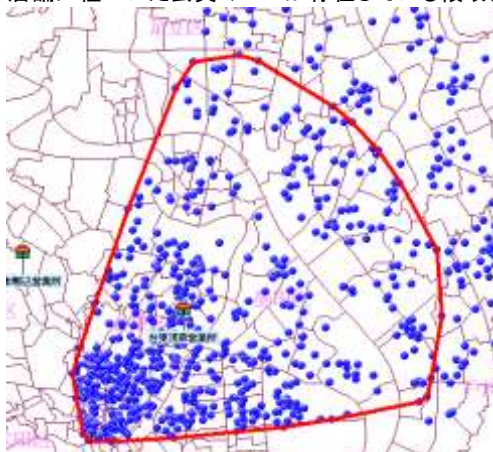
Version3.8.0 では以下の機能の追加／改修を行いました。

- ・ プロットを中心とした「分布商圈エリア作成」機能を追加
- ・ プロットにエリア属性値を反映する機能を追加

10.15 スパイダー表示を行う

スパイダー表示機能を拡張し、顧客分布商圈をエリアとして保存できるようにしました。

「顧客分布商圈」とは、例えば、店舗に紐づいた会員の 80%が存在している領域を商圈エリア化したものです。

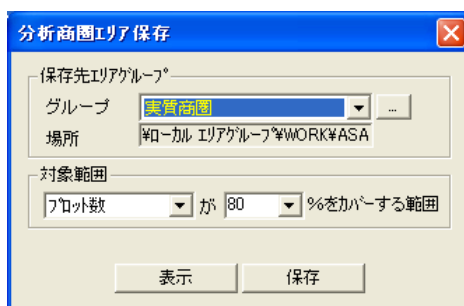


10.15.1 分布商圈を保存する

1. スパイダー表示作成後、画面下部の「分布商圈エリア保存」をクリックします。



「分布商圈エリア保存」ダイアログが表示されます。

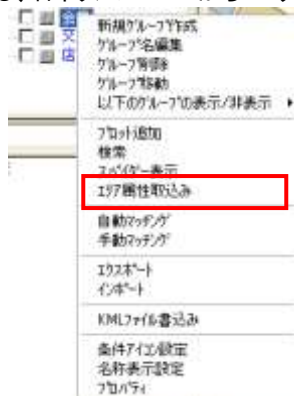


- 保存先のエリアグループを選択します。
エリアグループが現在地図上に表示中の場合はドロップダウンリストから、表示されていないエリアグループから選択する場合は「...」ボタンを押下して、エリアグループを選択します。
- 対象範囲を指定します。
対象範囲とは、例えば、
“プロット数”が“80%”をカバーする
“売り上げ”が“60%”をカバーする
などです。
リンク先プロットを、起点プロットとの直線距離の近い順に並べ、その中から、対象となる全リンク先プロットの総数のうち、指定された範囲(%)をカバーするプロットが対象範囲プロットとなります。
対象範囲には、プロット数、およびリンク先プロットの数値属性項目が選択できます。
- 「保存」を行います。
「保存」ボタン押下で分布商圏エリアが保存されます。保存前に画面上で確認する場合は、「表示」ボタンを押下して下さい。

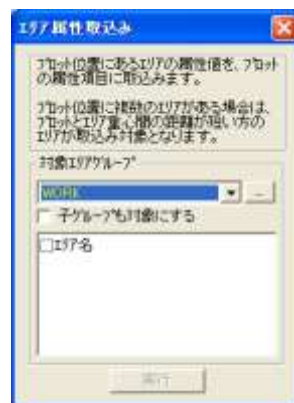
10.16 プロットにエリア属性値を反映

例えば営業所のテリトリーエリアに営業所コードが付けられているとき、営業所テリトリー内の顧客プロットに対して営業所コードを付与する、といったときに使用します。

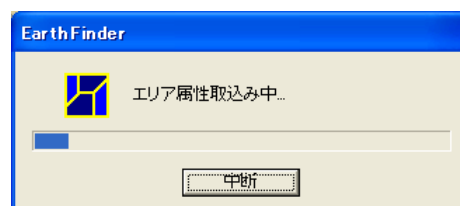
- プロットツリー上でグループを選択し、右ボタンメニューから「エリア属性取り込み」を選択して下さい。



「エリア属性取り込み」画面が開きます。



2. 対象エリアグループを選択して下さい。
エリアグループが現在地図上に表示中の場合はドロップダウンリストから、表示されていないエリアグループから選択する場合は「...」ボタンを押下して、エリアグループを選択します。
3. 取り込むエリア属性項目を選択して下さい。
4. 「実行」ボタンを押下すると、取り込みが開始されます。



13 集計・グラフ操作を行う

Version3.8.0 では以下の機能の追加／改修を行いました。

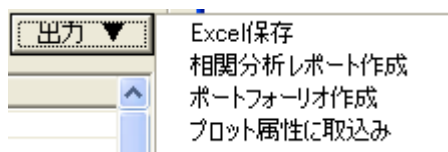
- ・ 「店舗相関分析データ」機能に「相関分析レポート作成」を追加。

13.11 店舗相関分析データを作成する

V3.8.0 では、集計実行後に出力できる資料として、「相関分析レポート」が追加されました。

13.11.5 集計結果を出力する

1. 集計結果表上の出力▼ボタンをクリックすると、出力メニューが表示されます。



以下の出力が可能です。

- ① Excel 保存
- ② 相関分析レポート作成
- ③ ポートフォリオ作成
- ③ プロット属性に取り込み

- ① Excel 保存
集計結果を Excel に保存します。

メニューから[Excel 保存]を選択すると、名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



保存先フォルダ、保存ファイル名を設定して、[保存]ボタンをクリックしてください。

- ② 相関分析レポート作成

2項目間の相関係数などを算出したレポートを出力します。

メニューから[相関分析レポート作成]を選択すると、「相関分析レポート作成」画面が開きます。

相関分析レポート作成

集計表中の項目を变量として相関分析を行い、分析結果をExcelに出力します。X軸として「*全指標」を選択したときは、Y軸とのペアごとにシートを分けて結果を出力します。

分析項目
Y軸 売り上げ X軸 *全指標

出力先
C:\Documents and Settings\Arai.KKCBS\My Documents\相関分...

Excel出力 キャンセル

Y 軸として分析する指標と、X軸となる使用を選択して[Excel 出力]ボタンをクリックすると相関分析レポート Excel ファイルが作成されます。



② ポートフォリオ作成

集計結果から2つの指標を選択して、Excel にポートフォリオを出力します。

メニューから[ポートフォリオ作成]を選択すると、「ポートフォリオ作成」画面が開きます。

ポートフォリオ作成

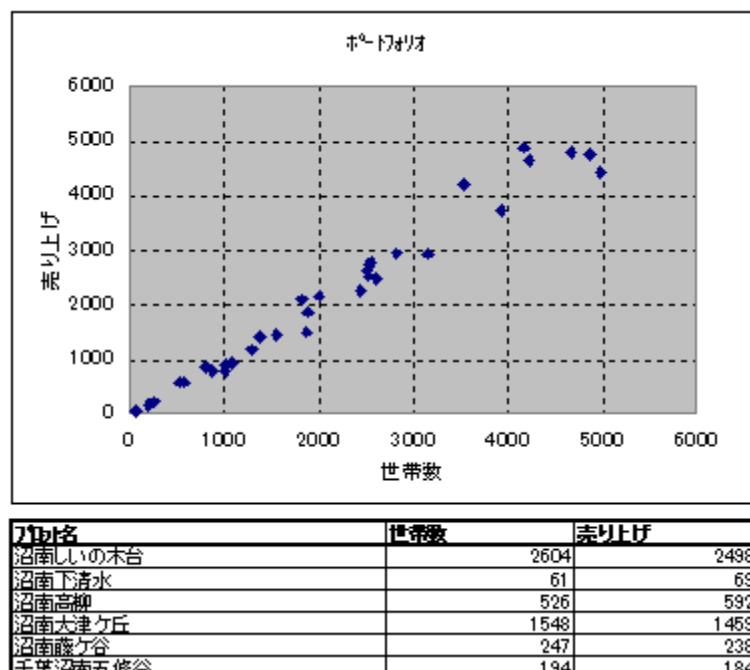
集計表中の2つの項目をX軸、Y軸として、その中に分析対象プロットを位置づけるポートフォリオをExcelに出力します。

分析項目
X軸 世帯数 Y軸 売り上げ

出力先
C:\Documents and Settings\Arai.KKCBS\デスクトップ\ポートフォ...

Excel出力 キャンセル

分析項目となる2指標と、出力先を指定して[Excel 出力]ボタンをクリックするとポートフォリオ Excel ファイルが作成されます。



③ プロット属性に取り込み

集計結果を分析対象プロットの属性項目に取り込むことができます。例えば、この機能を使って店舗の最寄駅を店舗プロットにセットすることなどが可能です。

メニューから[プロット属性に取り込み]を選択すると、「プロット属性に取り込み」画面が開きます。



取り込む属性項目、何次商圏の値を取り込むのかを指定し、[OK]ボタンをクリックすると、集計値のプロット属性への取り込みが行われます。

指定した項目がすでにプロットグループの属性に存在する場合は、以下のようなメッセージが表示されます。



- ・ 上書きで取り込む場合は「はい」を、
- ・ 重複しない属性のみ取り込み、重複している属性項目については上書きしない場合は「いいえ」を、
- ・ そもそも、今回の取り込み自体を行わない場合は「キャンセル」を選択してください。

19 その他の操作


Version3.8.0 では以下の機能の追加／改修を行いました。

- ・ 表示状態を保存／復元する機能を追加
- ・ システムフォルダを開く機能を追加

19.5 表示状態の保存／復元

表示状態の保存と復元を行います。保存／復元の対象となる項目は以下の通りです。

- ・表示位置と縮尺
- ・プロットの On/Off
- ・エリアの On/Off
- ・グラフ

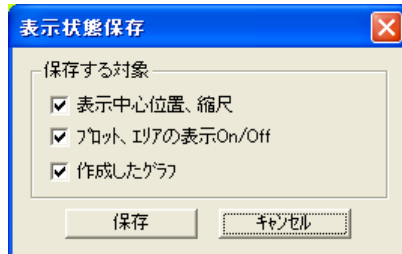
 プロットとエリアはあくまでも表示状態(表示／非表示)の保存で、データ自体は保存されません。表示状態を保存したのちに、プロットグループやエリアグループを削除した場合、エラーとはなりません但し復元はされません。

19.5.1 表示状態の保存

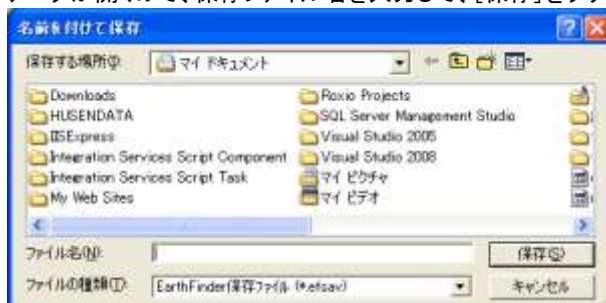
1. 「ファイル」メニューの「表示状態保存・復元－保存」を選択します。



保存対象選択ダイアログが表示されます。



2. 保存したい項目にチェックを付けて[保存]をクリックして下さい。
3. 「名前を付けて保存」ダイアログが開くので、保存ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。

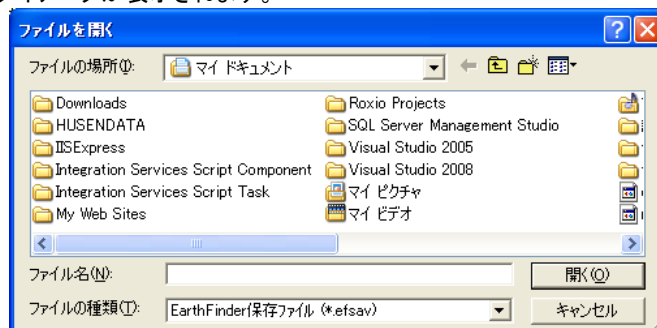


19.5.2 表示状態の復元

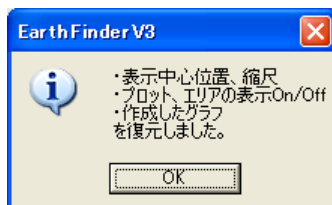
1. 「ファイル」メニューの「表示状態保存・復元－復元」を選択します。



「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。



2. 表示状態の保存機能で保存したファイルを選択して、[開く]をクリックして下さい。
3. 復元した内容が表示されます。



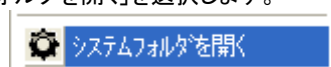
復元では以下にご注意ください。

- ・表示位置／縮尺は無条件で復元されます。
- ・現在表示されているプロット／エリア／グラフは非表示となります。
- ・保存されているグラフと同一名称のグラフが地図上で作成されている場合は、上書き確認のメッセージが表示されます。

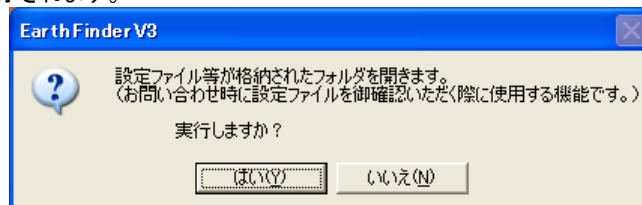
19.6 システムフォルダを開く

本システムの設定ファイル等が格納されたフォルダをエクスプローラで開く機能です。
操作のお問い合わせ等で、弊社から設定ファイルを確認させていただきときのご利用を想定しています。

1. 「ファイル」メニューの「システムフォルダを開く」を選択します。



確認のメッセージが表示されます。



[はい]でシステムフォルダがエクスプローラで開きます。



お問い合わせ対応用の機能です。システムフォルダ内のファイルを開き、内容を編集することはいけません。

30 マーケレポート作成

Version3.8.0 では、以下の機能を加えました。

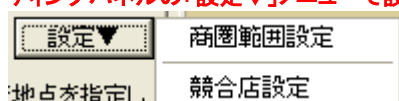
- ・ レポート一括作成機能
- ・ オリジナルレポート作成機能
(MarketFinder などの ASP サービスでは「オリジナルレポート作成機能」はオプション契約となります。)

30.1 レポート一括作成

マーケティングパネルでのマーケレポート作成では、地図上をクリックすることで、最大5つまでの調査地点を設定し、マーケレポートを作成することができました。

Version3.8.0 では、プロットやエリアを指定することで、最大5を超えたレポートを一括で作成することができるようになりました。

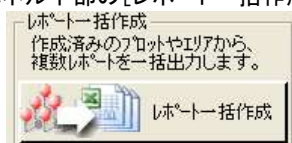
商圏範囲や競合店の設定は、マーケティングパネルの「設定▼」メニューで設定したものが適用されます。



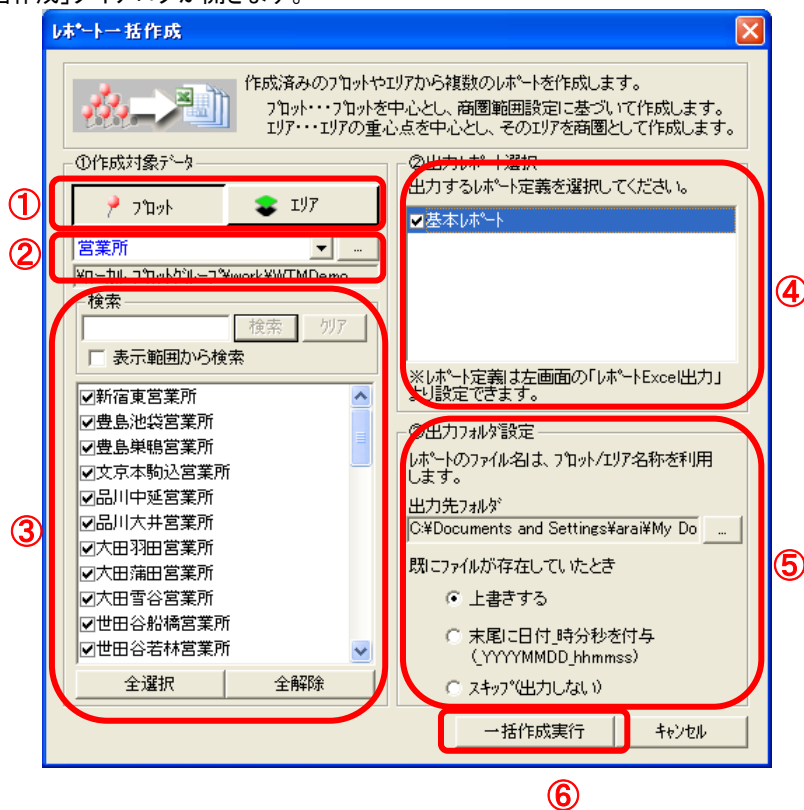
レポート一括作成開始前に設定しておいて下さい。

30.1.1 レポート一括作成ダイアログを開く

マーケティングパネル下部の「レポート一括作成」をクリックします。



「レポート一括作成」ダイアログが開きます。



30.1.2 作成対象データを選択する

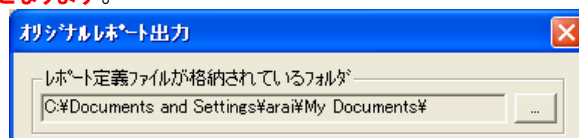
- ① プロットを対象にレポートを作成するか、エリアを対象とするかを選択します（混在はできません）。
プロットを選択したときは、選択したプロットの位置に対して、マーケレポートの「商圏範囲設定」で設定している商圏範囲（例えば1次商圏：半径 300m、2 次商圏：半径 500m など）を用いて、商圏エリアを発生させレポートを作成します。
エリアを選択したときは、そのエリアそのものが商圏となります。
- ② グループを選択します。グループが現在地図上に表示中の場合はドロップダウンリストから、表示されていないグループから選択する場合は「...」ボタンを押下して、グループを選択します。
- ③ 出力対象データを選択します。必要に応じて名称の文字列検索を使いながら、レポートに出力したいプロットやエリアを選択し、データ名の左の口をチェックします。

30.1.3 出力レポートを選択する

- ④ 出力するレポートセットを選択します。ここに記載されているレポートセット名称は、マーケットパネルの[レポート Excel 出力]で表示される「分析レポート設定」画面で登録されたものです。



オリジナルレポート作成オプション機能付きでご利用されている場合は、オリジナルレポートも選択することができます。オリジナルレポート定義ファイルの格納位置は、マーケットパネルの[オリジナルレポート出力]で表示される画面で登録されているものとなります。



レポート一括作成でオリジナルレポートを対象とする場合は、初回のみ「オリジナルレポート出力」機能でレポートを作成して下さい。

30.1.4 出力フォルダを設定する

- ⑤ [...]をクリックして、レポートの出力先フォルダを設定します。また、そのフォルダにすでにレポートが存在している場合の処理を選択します。

上書きする 末尾に日付時分秒を付与 スキップ(出力しない)	上書きでファイルを保存します。 ファイル名の末尾に日時分秒を付与した名前で保存します。 すでに存在しているものについては出力しません(そこで処理を中断する訳ではありません)。
-------------------------------------	---

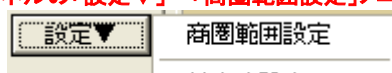
30.1.5 一括作成を実行する

- ⑥ [一括作成実行]をクリックすると、レポートの作成が開始されます。途中で中断した場合は、それまでに作成済みのレポートのみが、出力フォルダに出力されます。

30.2 オリジナルレポート出力

マーケレポートに搭載している指標は、すべてのユーザ様でお使いいただけるよう、国勢調査、商業統計、事業所統計などから代表的な指標を網羅的に集めたものです。
Version3.8.0 では、あらかじめプリセットされたこの標準レポート以外に、お使いのユーザが自分で Excel のテンプレートを用意し、集計する指標を定義することで、オリジナルのレポートを作成できるようになりました。
オリジナルレポートの定義方法については、別資料を用意しておりますので、ここではレポート定義ファイルが作成済みであることを前提として、その出力方法について説明します。

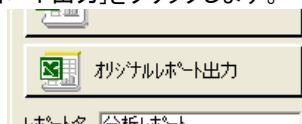
なお、商圏範囲は、マーケティングパネルの「設定▼」-「商圏範囲設定」メニューで設定したものが適用されます。



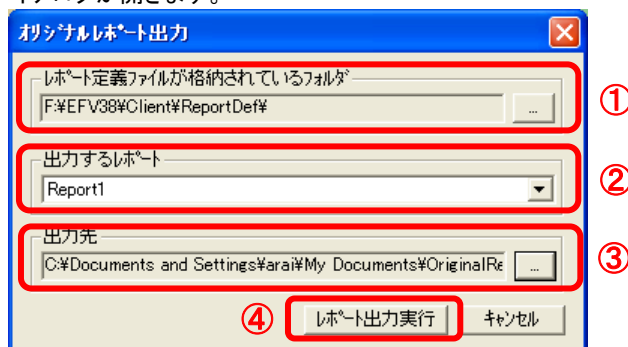
(競合店プロットグループはレポート定義ファイルに記述されたものが使われます。)

30.2.1 オリジナルレポート出力ダイアログを開く

マーケティングパネル上の[オリジナルレポート出力]をクリックします。



「オリジナルレポート出力」ダイアログが開きます。



30.2.2 レポート定義ファイルが格納されたフォルダを指定する

① [...]をクリックすると「フォルダの参照」ダイアログが開くので、レポート定義ファイルが格納されたフォルダを選択します。(レポート定義ファイルは、レポートごとにフォルダを分けずに、1つのフォルダにまとめて格納するようにして下さい。)

30.2.3 出力するレポートを選択する

② のドロップダウンリストに、①で指定したフォルダ内にあるレポート定義ファイルが一覧されるので、出力したいオリジナルレポートを選択します。

30.2.4 出力先を設定する

③ [...]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログが開くので、出力ファイル名を設定します。

30.2.5 レポート出力を実行する

④[レポート出力実行]をクリックするとレポートの作成が開始され、③で指定したフォルダ、ファイル名でレポート Excel ファイルが保存されます。

以上